

卒業式・専攻科修了式 告辞

千歳川の土手に土筆が顔を覗かせ、川面を水鳥が自由に行き交うこの早春の佳き日に、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成29年度久留米工業高等専門学校本科第53回卒業式並びに専攻科第24回修了式を挙げてまいりましたことを、卒業生・修了生はもとより、本校教職員一同、まことに光栄に存じます。高壇からではございますが、ご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。皆さんは、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という教育理念に基づいて各学科・各専攻において周到に用意されたエンジニア育成のためのプログラムを立派に修得され、ご卒業・ご修了を迎えられました。皆さんのこれまでのご研鑽とご努力に深く敬意を表します。また同時に、卒業生・修了生の皆さんの学業をこれまで支えて来られました保護者の皆様には心より感謝申し上げます。

久留米高専は、旧制久留米高等工業学校が、ここ小森野の地に創設されてから80年近く、現在の工業高等専門学校の歩みを始めてから55年余を経過しております。1万3千余に及ぶ同窓生の皆様は、国内外において、エンジニアとして、社会人として多方面で活躍されています。同窓生の皆様のほとんどは、さすがに社会の第一線でご活躍されている方々だけあって、お仕事への姿勢は、アグレッシブ（積極的）である同時にモデスト（謙虚）であります。また、同窓生の皆さんは、同窓会活動を通して豊富な人脈を築き上げておられます。卒業生・修了生の皆さんは、今日からその仲間入りをします。そのことを、喜びとし、また大いに誇ってよいと存じます。そして、皆さんは、今後同窓生の皆様に勝るとも劣らないような活躍をしていかれるよう期待しています。

さてここで、饒に、卒業生・修了生の皆さんが今後社会で仕事をしていくに当たって大切であると思われるキーワードを二つ申し上げたいと思います。

一つは、「異分野・他分野への理解」ということであります。久留米高専では、一学科複数コース制（いわゆる括り入試制）をとっておらず、本科においては入学時から卒業まで基本的に同一の学科・クラスで授業を受けます。そこには、基礎から応用まで工学の一貫した専門教育を重視する精神が息

なおざり

づいています。しかし、それは、久留米高専が分野横断の教育を等閑にしているということを意味していません。ものづくり教育センターでは、機械工学科だけでなく、他学科も実習を行っています。各学科の教員は、共同研究だけでなく授業の持ち合いにも取り組み、異分野・他分野に関する一定の素養を備えた技術者の育成に力を注いでいます。

ソニーの創業者である井深大さんは、戦前日本測定器株式会社の常務として活動していた時のことを次のように記しています。

「ここで私たちは測定器などいままで世の中になかったものもいろいろ開発したが、私たちは仕事の上で一つのイデオロギーを持っていた。そのころ電気屋と機械屋がはっきり遊離していて電気屋はなんでも電氣的に、機械屋はすべて機械で解決しがちだったのを、その中間をうまく縫って両方の特徴を生かした仕事をしようというのが根本の考え方だった。」

井深さんたちはこうした考え方に基づいて戦後現在のソニー株式会社の前身である東京通信工業株式会社を設立されました。名文として名高い同社の設立趣意書の中にも「…単に電気、機械等の形式的分類は避け、その両者を統合せるがごとく、他社の追随を絶対許さざる境地に独自なる製品化を行う」と記されています（井深大『自由闊達にして愉快なる 私の履歴書』（日経ビジネス人文庫））。

異分野・他分野への理解に関する井深さんらのこうした考え方がなければ、数々の革新的な商品を作り出し名実ともにグローバル企業となったその後のソニーの発展はなかったのではないかと思います。

いま一つのキーワードは、「オーナーシップ」ということでもあります。世界最大のタイヤメーカーである株式会社ブリヂストンの元 CEO 荒川詔四さんは、「オーナーシップ (ownership)」について、「自分が担当する仕事に対する所有権をしっかり握って離さないこと」、すなわち「自分の仕事の主導権を手放さないこと」だと述べています。

企業等の活動のほとんど全ては組織的なものであり、担当者は上司・同僚・関係部署との組織的な対応に万全を期すことが求められます。しかし、組織的な対応のために「自分の意思」を捨てると、「担当した仕事は迷走を続け、質の低いものにしかならない」、結局のところ、「自分の意思」がなければ、「子どもの使い」にしかならない…組織の歯車のなかでギリギリと押しつぶされることを恐れるならば、多少の風当たりはあったとしても、オーナーシップをしっかりと保持したほうがいい、…そんな若者のほうが、将来、大きく成長する」と荒川さんは説いています（『優れたリーダーはみな小心者である。』ダイヤモンド社）。

卒業生・修了生の皆さん、これからも「異分野・他分野への理解」を失わず、また、心のどこかに「オーナーシップ」を宿し、日本のみならず世界の産業界のイノベーション（技術革新）の旗手となって行ってください。ご健勝とご活躍を祈念いたします。

平成30年3月15日

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校長
三川 譲二